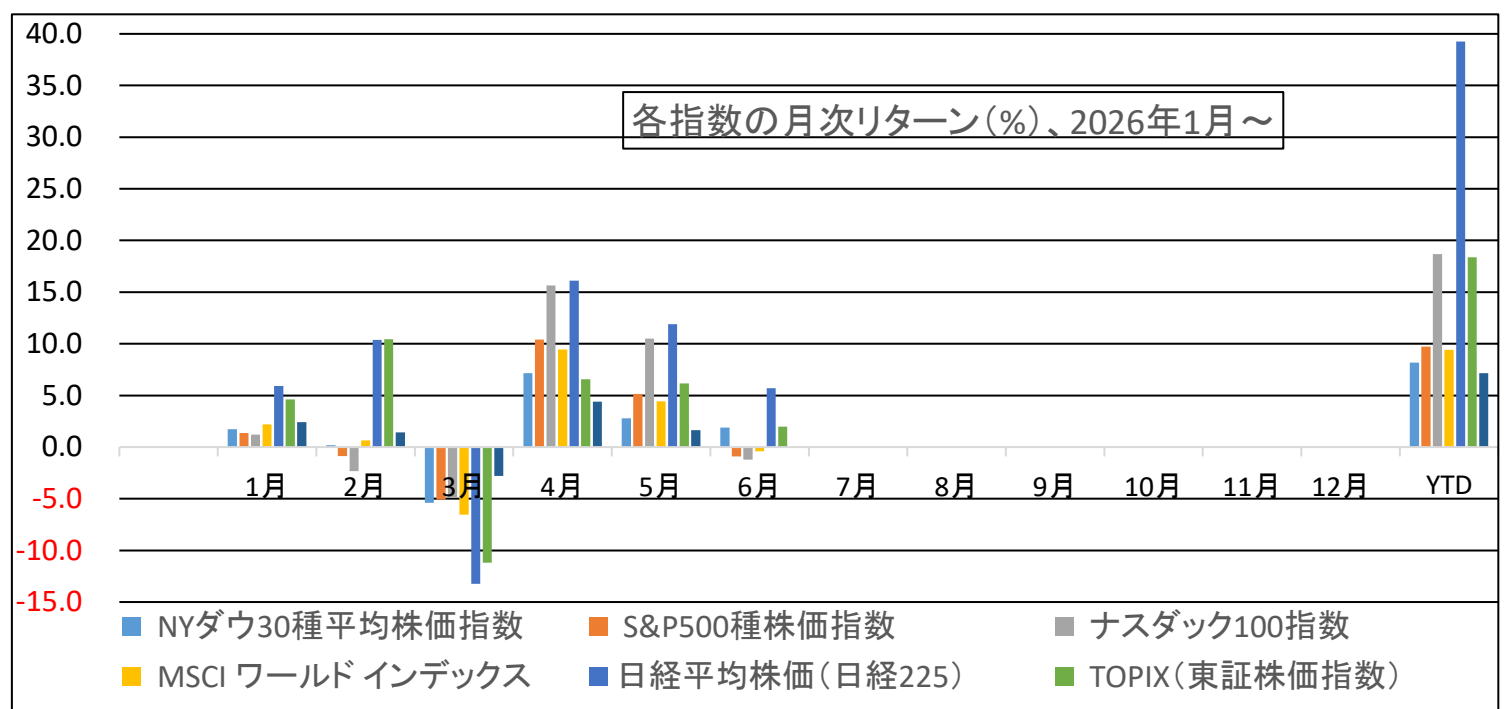


この月報は2026年5月のものですが、以下の表とグラフ及び総論は、この原稿執筆時の2026年6月19日時点でのものになります。

	2026	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	YTD
NYダウ30種平均株価指数		1.7	0.2	-5.4	7.1	2.8	1.9							8.2
S&P500種株価指数		1.4	-0.9	-5.1	10.4	5.1	-0.9							9.7
ナスダック100指数		1.2	-2.3	-4.9	15.6	10.5	-1.2							18.7
MSCI ワールド インデックス		2.2	0.6	-6.6	9.5	4.4	-0.4							9.4
日経平均株価(日経225)		5.9	10.4	-13.2	16.1	11.9	5.7							39.3
TOPIX(東証株価指数)		4.6	10.4	-11.2	6.6	6.2	2.0							18.4
HFRI Fund of Funds Composite Index		1.69	1.14	-2.08	4.34	2.60								7.81
HFRI Fund Weighted Composite Index		2.41	1.41	-2.78	4.40	1.65								7.14

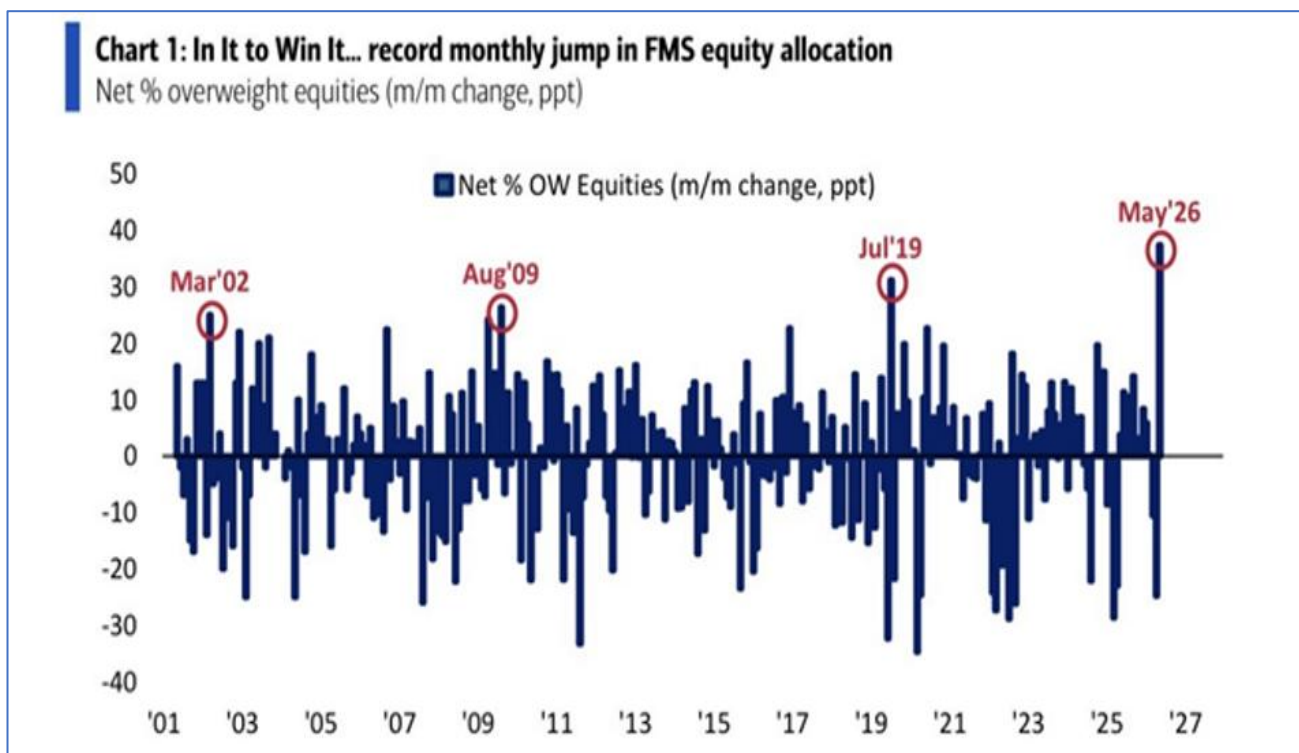


注：以下のコメントは、運用会社アンタークティカ社より共有されたレポートを基に、エアーズシー証券が作成したものです。信頼できる情報に基づき作成をしておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保証するものではありませんし、将来の実績を保証または示唆するものでもありません。エアーズシー証券は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じた如何なる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

5月には、3月の安値局面から続いている投資家のポジショニングとセンチメントの大幅な反転がさらに進展しました。投資家は地政学的リスクへの懸念を脇に置き、世界各地域で株式を積極的に買い進めた結果、世界株式（MSCIワールド指数）は前月比 **+4.4%** 上昇しました。

この上昇相場は月末にかけてさらに勢いを増し、米国株式市場は9週連続の上昇を記録しました。また、ナスダック100指数は史上初めて **30,000ポイント** を上回って取引を終えました。

図表1：BofA（バンク・オブ・アメリカ）調査 — 株式配分比率の月次変化（2001年～2026年累計）



出典：アンタークティカ

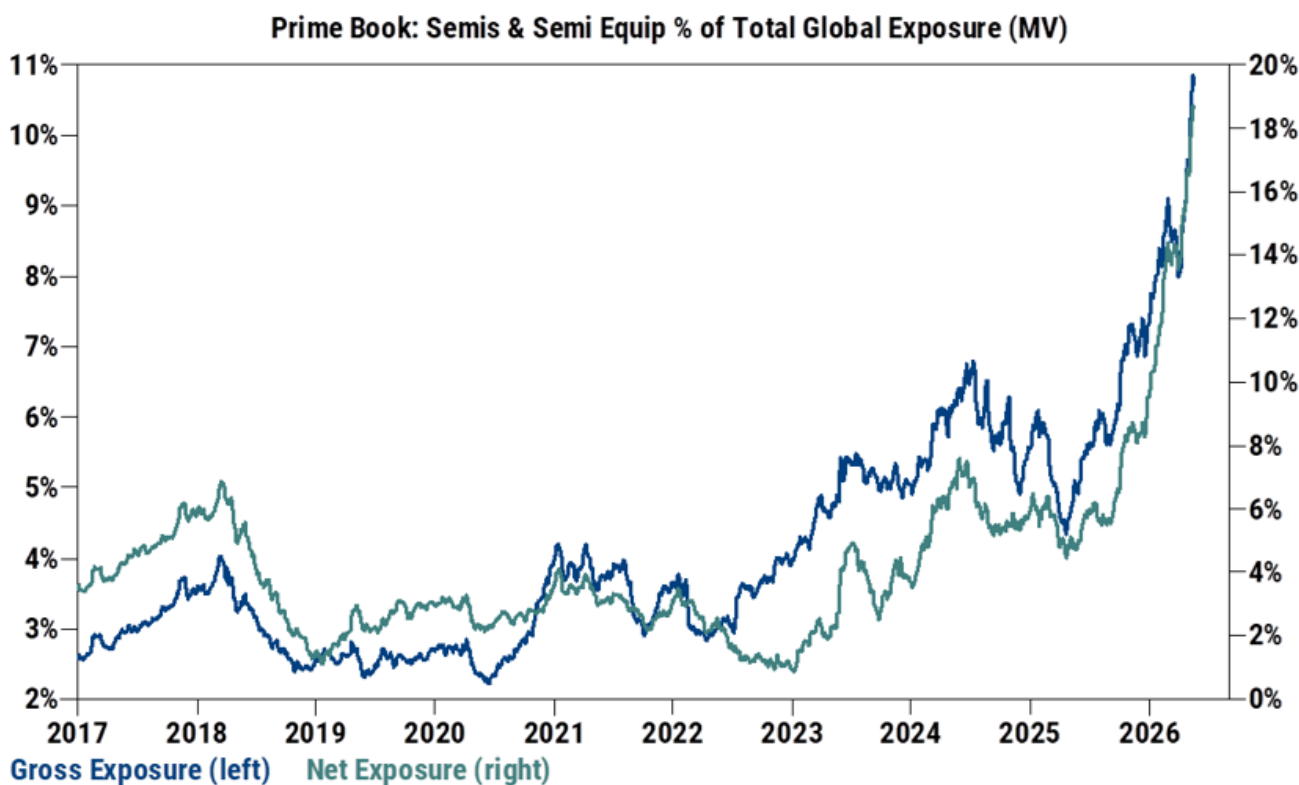
AI（人工知能）関連テーマは引き続き市場を牽引し、半導体株指数（SMH）は5月に **18%上昇** しました。また、半導体産業への依存度が高い市場も大きく上昇し、台湾加権指数（TWSE）は **15%上昇**、日経平均株価（NKY）は **12%上昇**、韓国総合株価指数（KOSPI）は **29%上昇** を記録しました。

さらに、MU（Micron Technology）の時価総額は月末にかけて **1兆ドル** に到達しました。これはわずか12か月前の約700億ドルから大幅に拡大したことになります。

ゴールドマン・サックス・プライム（GS Prime）によると、半導体関連銘柄へのエクスポージャーは、2024年末時点では世界のロング・ショート戦略全体のネットエクスポージャーに占める割合が数%程度に過ぎなかったですが、現在では **約20%近く** にまで急拡大しています。

この背景には力強い企業業績があり、AI関連投資（AI向け設備投資・資本支出）の拡大期待が一段と高まっていることが主な要因となっています。

図表2：GS Prime — 半導体および半導体製造装置関連銘柄の世界総エクスポージャーに占める割合（2017年～2026年累計）



出典：アンタークティカ

AI 主導の力強い上昇相場が続くなか、市場全体の上昇を支える銘柄の裾野（マーケット・ブレッド）はさらに狭まっています。現在、**エヌビディア（NVIDIA）の時価総額だけで S&P500 の 11 セクターのうち 7 セクターを上回る規模**となっており、また半導体関連銘柄だけで S&P500 指数の年初来上昇分の半分以上を占めています。

一方で、つい最近まで市場で最も人気の高い成長株投資先の一つであったソフトウェア業界は、プライムブローカレッジのデータによると、現在では**最も売り越されている業種グループ**となっています。しかしそのような環境下でも、独自の成長要因を持ちながら数年来の低いバリュエーションで取引されている銘柄には依然として投資機会が存在します。

その代表例がクラウドデータプラットフォーム企業の Snowflake（スノーフレック）です。同社は 5 月 27 日、予想を上回る好決算を発表するとともに、アマゾンとの AI コンピューティング契約を公表し、株価は 1 日で 30% 超上昇しました。

同様の状況は、**一般消費財（Consumer Discretionary）** や **金融セクター（特に決済関連企業）** にも見られます。これらのセクターに対するヘッジファンドのネットエクスポージャーは依然として過去 10 年で最低水準付近にあり、防御的セクターについても歴史的な相対的弱さが続いています。

興味深いことに、このような投資家の楽観姿勢は、世界的な債券利回りの急上昇にもかかわらず維持されました。背景には、5 月中に発表された米国の**消費者物価指数（CPI）** と **生産者物価指数（PPI）** がともに市場予想を上回ったことがあります。また、原油価格上昇が単なる供給ショックにとどまらず、より広範なインフレ圧力や景気への逆風に発展する可能性への懸念も高まりました。

米国 10 年国債利回りは、昨年前半に市場の動揺を引き起こした水準に再び接近し、5 月 19 日には 4.69% まで上昇しました。さらに **30 年国債利回りは一時 5.17% に達し**、これは 2007 年 7 月以来の高水準となりました。同時に英国国債（ギルト）の利回りも数十年ぶりの高水準を記録しました。

株式市場は月中に一時的な調整局面を迎えたものの、その下落は短期間で終わり、市場の関心は再び企業業績の力強さと成長テーマへと向かいました。

4 月に下落基調を再開していた米ドルは、5 月には反発し、**ドル指数（DXY）は 0.9% 上昇**しました。特に韓国ウォン（KRW）、インドネシアルピア（IDR）、トルコリラ（TRY）に対して強い上昇を見せました。

一方、金（ゴールド）は世界的な金利上昇の中でも比較的狭いレンジ内で推移しました。

株式市場のボラティリティ（変動率）は引き続き低下し、**VIX 指数（恐怖指数）は月末時点で 15.3** となりました。これは 4 月 30 日時点の 16.9 を下回り、3 月 27 日に記録した 31.1 のピークから大幅に低下した水準です。

#### 情報ソース、及び注意事項：

アンタークティカ社、HFR ホームページ、ブルームバーグ、日経新聞、トムソン・ロイター、ウォール・ストリート・ジャーナル、リフィニティブ、QUICK などのソーシャルメディア、ウェブサイトの信頼できる情報に基づき、本資料を作成しておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保障するものではありません。また、本株式の過去の運用実績に関する分析の提供は、将来の運用成績を示し保障するものではありません。エアーズシー証券株式会社は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じたいかなる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券株式会社の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。